

## 研究協力のお願ひ

昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

最大握力、最大開眼片脚起立時間と、フレイルの関係

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2015年1月から2020年12月の間に、昭和大学病院または昭和大学病院附属東病院 整形外科骨粗鬆症診に通院された50歳以上の女性の方。

### 2. 研究目的・方法

日本は75歳以上の人口が増加し、2025年には現役世代3人で一人の高齢者を支える状況になると予測されています。年齢を重ねるごとに筋力や身体機能の低下などが生じます。身体機能の活動性が低下する高齢者の虚弱状態を「フレイル」という表現を用います。いつまでも元気で長生きをするためには、フレイルを早期発見することが重要になります。私たちのグループは、握力が低下したり、片足立ちができなくなると転びやすくなったり活動量が低下することを研究報告してきました。

そこで今回、「握力や開眼片脚起立時間から、フレイル（虚弱状態）を予想できる」、という仮説を立て、研究を行う予定です。

対象：昭和大学病院または昭和大学病院附属東病院 整形外科骨粗鬆症診に通院された50歳以上の女性を対象とします。

方法：左右の握力および開眼片脚起立時間、転倒スコア、年齢、BMI（Body mass index）、フレイルスコア、血圧、カルシウム摂取量、血液生化学を用いて研究します。

統計解析：統計ソフトはStat Flex 7.0を使用し、統計解析はMann-Whitney U検定、重回帰分析、ロジスティック回帰分析を用いて両側P<0.05を有意差ありとします。

### 研究期間

「医学研究科 人を対象とする研究に関する倫理委員会」承認後、病院長の研究実施許可を得てから2022年3月31日まで。

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

2015年1月1日から2020年12月31日までに昭和大学病院整形外科または昭和大学病院附属東病院整形外科において骨粗鬆症の経過観察のために受診している患者さんの診療録の中から、フレイルスコアが聴取されている外来患者さんのデータを用います。患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）および検査項目（左右の握力および開眼片脚起立時間、転倒スコア、年齢、BMI（Body mass index）、フレイルスコア、血圧、カルシウム摂取量、血液生化学）を調査項目とします。

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名：永井隆士

住所：142-0054 東京都品川区西中延2-14-19 電話番号：03-3784-8000(代表)

研究責任者：永井隆士